

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-0055  
 住 所 東京都中央区豊海町4-18 東京水産ビル6階  
 氏 名 株式会社マルハニチロ物流  
 取締役社長 岡崎 博  
 (代理人) 関東支社長 竹内 好弘  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社マルハニチロ物流		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区東扇島17-7		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	主として冷凍貨物品の保管を行っている。		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,291	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成29年度 ～ 平成31年度 (報告年度 平成31年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策結果報告

## 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

## ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 4,668 (調) 4,584 t-CO <sub>2</sub>	(実) 4,652 (調) 4,569 t-CO <sub>2</sub>	(実) 4,628 (調) 4,545 t-CO <sub>2</sub>	(実) 4,620 (調) 4,537 t-CO <sub>2</sub>	(実) 4,530 (調) 4,445 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 0.3 (調) 0.3 %	(実) 0.9 (調) 0.9 %	(実) 1.0 (調) 1.0 %	(実) 3.0 (調) 3.0 %

## イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	倉庫屯		単位	t-CO <sub>2</sub> /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.05103	0.05085	0.05060	0.05050	0.04950
削減率		0.4 %	0.8 %	1.0 %	3.0 %

## ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	川崎第一物流センターでは荷捌き場LED化工事の効果で実排出量4.8%の削減が行えた。川崎第二、第三物流センターでも接車バースの外気侵入対策や冷凍機の効率的なスケジュールを組むなど行ってきたが実排出量の増加となってしまった。結果的には3センター合計で0.3%の削減となりました。
第2年度	冷凍機の効率的な運転により、排出量は基準年度と比べて0.9%の削減となりました。次年度では川崎第二で接車バースの外気侵入対策や川崎第三で接車バースのボトムパッド交換を実施することにより目標の3.0%削減に少しでも近づきたいと思えます。
第3年度	毎年削減率は改善されていたが目標値には至らなかった。川崎第一物流センターでは3年間毎年電気使用量が基準年度に対して約5%の削減をしました。しかし、第二・第三物流センターでは電気使用量の削減とはならなかった。弊社における温室効果ガス排出の大部分を占めるのは電気使用量（冷凍機動力）で、業務の主となる部分でもあり難しいところではあります。川崎第二物流センターでは次年度に一部照明のLED化、1階荷捌き断熱工事・有圧扇設置工事と改善を行っているので次年度以降の削減効果を期待していきたい。

## (2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全国施設担当者会議（TV会議）を年3回実施。省エネに関しての意見・情報交換を行う。予定通りに実施し情報交換を行った。</li> <li>2. エネルギー使用量の高いセンターを会社独自に重点監視センターとし注意を促す。全国各地域にて毎月施設担当者会議を実施、その中で省エネルギー推進委員会という活動を行い電力量の実態調査と省エネについての活動報告を実施している。</li> <li>3. 事務所にて積極的にクールビズ・ウォームビズを推奨。空調機の節電に励む。5～10月の期間でクールビズを実施し、空調温度設定を27℃とする。11月～4月の期間でウォームビズを実施し、空調温度設定を20℃とする。</li> </ol>
---

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接車バース外気侵入対策による節電</li> <li>・照明 蛍光灯からのLED化</li> <li>・事務所空調機設定温度の表示、冷凍機温度スケジュールの管理</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接車バース外気侵入対策による節電 川崎第一 バースパッド追加工事、川崎第三 バースパッド交換工事を行った。</li> <li>・照明 蛍光灯からのLED化 川崎第一 荷捌き室等809カ所LED照明へ交換</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接車バース外気侵入対策による節電 川崎第二 バース接車口上部に換気扇を設置し暖気を吸入予定であったが実施できず次年度持越し。</li> <li>・冷凍機温度スケジュールの管理 3センター各自で随時調整管理を実施。</li> </ul>
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接車バース外気侵入対策による節電 川崎第二 バース接車口上部に有圧扇設置 (5カ所)</li> <li>・冷凍機温度スケジュールの管理 3センターにて随時管理・調整を実施。</li> </ul>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	グリーン経営認証取得 環境問題への取り組みの一環として、省エネ設備の導入や廃棄物の適正管理、環境教育を実施し、全拠点のグリーン経営認証取得を目指している。
第1年度	川崎第一物流センターにて荷捌き場LED化による省エネ設備導入 ダンボール、PPバンド、ストレッチフィルムの分別によりリサイクルの実施 産廃棄物管理会社による廃棄物知識勉強会に参加 新たなグリーン経営取得はないが8センターでの更新を実施。
第2年度	引き続き川崎3センターにてダンボール、PPバンド、ストレッチフィルムの分別によるリサイクルの実施。 親会社主催による廃棄物知識勉強会に参加。 新たにグリーン経営取得となっていないが川崎第一、川崎第二を含む6センターでの更新を実施。
第3年度	川崎3センターにて木くず、ダンボール、PPバンド、ストレッチフィルムの分別によるリサイクルの実施。 親会社主催による廃棄物知識勉強会に参加。 新たにグリーン経営取得はないが、12センターにて更新を実施。 (第1年度で8センターと記載していたが12センターの誤りです。) ※全社18センターの認証を受けております。 省エネ機器の導入として、変圧器をトッランナー変圧器(1基)に更新。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	4,325	t-CO <sub>2</sub>
(調)	4,206	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎第二物流センター	川崎区東扇島17-7	4721	冷蔵倉庫業	1,876 t-CO <sub>2</sub>
川崎第一物流センター	川崎区東扇島25-2	4721	冷蔵倉庫業	1,570 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	1
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--